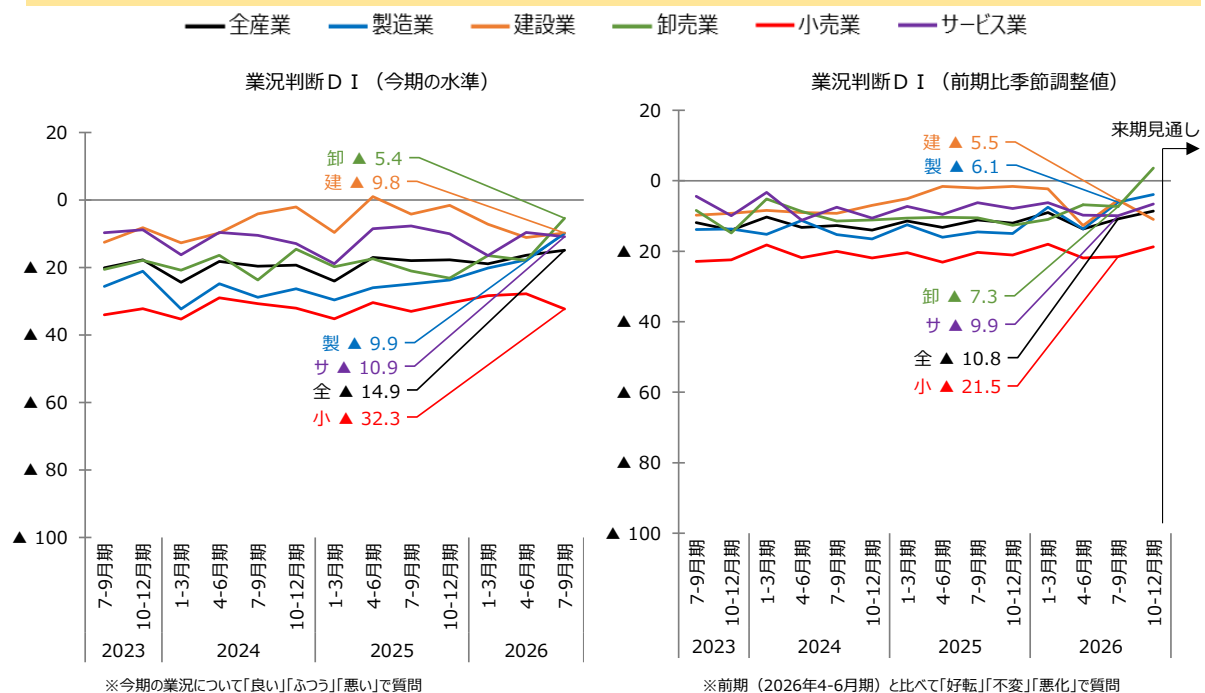


第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 関東

Be a Great Small.
中小機構 中小企業の価値を、
日本の原動力に。

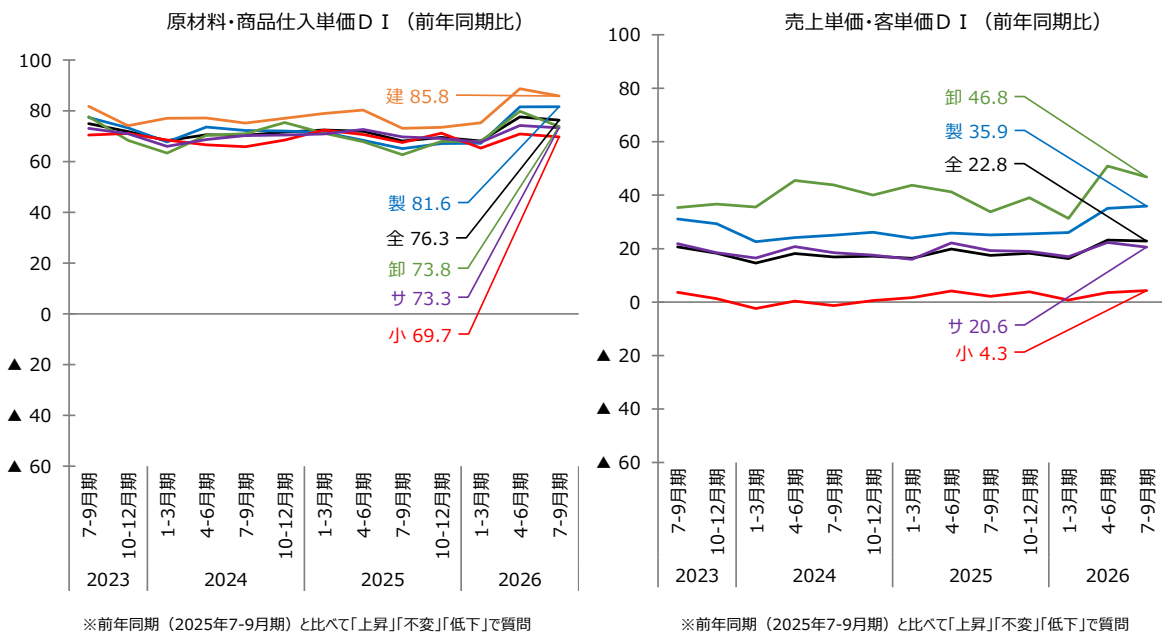
1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より1.5ポイント増の▲14.9と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、建設業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.3ポイント減の76.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業でやや上昇し、卸売業、建設業、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.4ポイント減の22.8とやや低下し、2期ぶりの低下となった。産業別にみると、製造業、小売業でやや上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,829 有効回答企業数：17,902 有効回答率：95.1% うち、関東：4,847企業

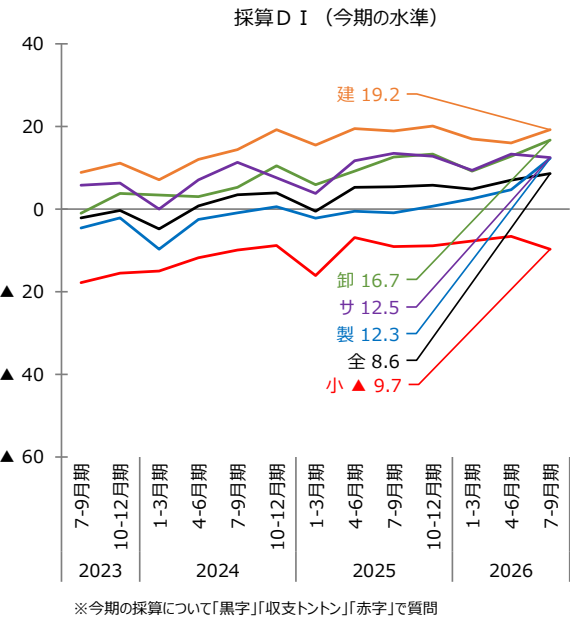
※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 関東



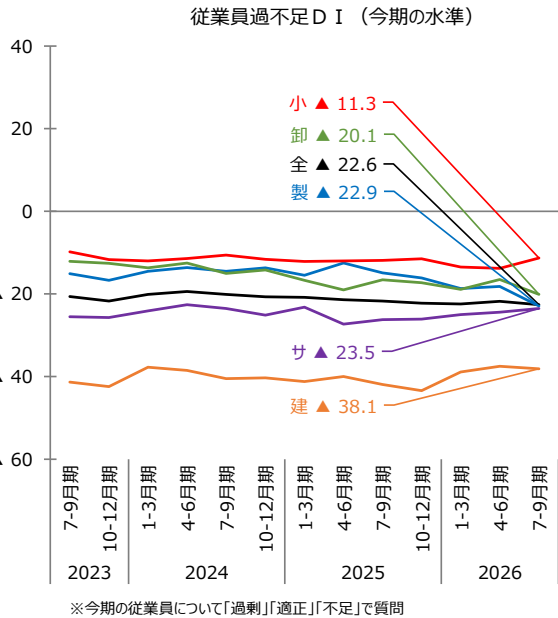
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.6ポイント増の8.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、建設業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.8ポイント減の▲22.6とやや低下し、2期ぶりの低下となった。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、製造業、卸売業、建設業で低下した。



5. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	徐々に生産数が増えてきた。しかし、原材料価格をはじめ金型部品、副資材などあらゆるモノの値段が上がり、価格転嫁が追いついてない状況である。	製造業	その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業
	引合い増加に伴い、業況も良く好景気な感触である。雇用する余力はないため、工事期間が長期化している。	建設業	内装工事業
	生花生産者の高齢化、後継者不足、生産量の減少など売上に繋がる要素がマイナス傾向。国産品の減少に伴い輸入品に移行するにも円安により利益が薄くなる。各市場でいかに商品を増やし、小売店に提供できるかが今後の課題である。	卸売業	他に分類されないその他の卸売業
	切削加工の需要が増える一方、超硬製品の主要原料であるタングステンは中国からの輸入停滞が続き、安定供給の見通しが立っていない。今後、供給不足や原材料価格高騰による製品価格上昇が懸念される。	小売業	無店舗小売業（機械器具小売）
	製造業向けのA Iセミナーが好調であり、高評価を受けている。玉石混交の状態になってきており、利用者が「ニーズがあるが利用目的は不明確」という状況になっており、顧問契約にはつながらない。	サービス業	インターネット利用サポート業
見通し	塩ビ材料が入手困難になっている。原因は大企業の買い占め。二年先まで買い占められており、中小企業に回ってこない。	製造業	その他の電気機械器具製造業
	ハウスメーカーとしては、職人不足を背景に受注は堅調であるが、消耗品の値上がりが顕著となっている。パネル工場からの納期遅延により稼働日が減少し、生産計画への影響が懸念される状況にある。	建設業	木造建築工事業
	発電機械用さび止め剤の売上が好調な一方、米国経済などの不振を受け、自動車部品輸出用のさび止め剤の先行きが不透明。	卸売業	その他の化学製品卸売業
	過去の借入の返済額が大きく、売上を上げても返済に回すと赤字である。そこに、近くに新しく薬局が建つことが決まっており、今後の経営はさらに悪化することが予想される。	小売業	調剤薬局
	現状、冬季受注予約が今年並みに確保されているので不変的な保持を想定している。しかし、マネーファースト投資と短期回収をもちろむ事業者による事業環境荒廃への懸念、経済巡回の持続性への不安につながっている。	サービス業	旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)